

年報 (No.22)

令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月の活動記録

2024.4-2025.3

和歌山県立医科大学

血液内科学講座

目 次

- 1 はじめに
- 2 教室現況
 - (1) 教室員
 - (2) 人事異動
 - (3) ローテート初期研修医一覧
 - (4) 業務分担
- 3 スケジュール表
 - (1) 医学部生の病棟臨床実習
 - (2) 臨床実習授業評価
 - (3) 血液内科診療の医師勤務表
 - (4) 5階西病棟の当直医表（3月）
- 4 主な活動内容
 - (1) 学会（全国、地方）
 - (2) 学術論文（総説・原著：和文、英文、症例報告：和文、英文、レター）
 - (3) 受賞歴
 - (4) 著書（単行本、シリーズものを含む）
 - (5) 研究費、助成金
- 5 診療実績（外来・入院患者数、疾患別分類、死亡、剖検など）
- 6 リーダーレポート（病院教授、講師、助教、輸血部主任、看護師長など）
- 7 寄稿文
- 8 研修医写真

1 はじめに

本年度は医師の働き方改革が本格化した年度である。毎朝、WEB 上で勤怠管理をチェックするように心がけている。「働き方」は自分自身や他人の「生き方」につながるので重要な改革である。一方で、大学は就労の場であるとともにアカデミアであり、一見無駄と思えるスペース、機器、資源などが与えられているのだから、大学に所属する人間はそれらを活用することが重要である。

(人事) 本年度は曾我部槇子専攻医が入局してくれた。几帳面な診療メモが印象的である。村田祥吾講師は医局長、細井裕樹講師は病棟長を務めている。蒸野寿紀講師は地域医療支援センターの大黒柱として活躍している。堀善和助教は 7 月に腫瘍センターに配置換えとなった。田中顕助教は外来医長、小浴秀樹助教は研究主任を務めている。山下友佑助教はアリゾナの Mayo clinic の PL Bergsagel 教授のラボに留学した。(診療) 一昨年に導入した CAR-T 療法を患者さんに順調に提供できている。FFP240 を中心に使用することで FFP の適正使用を促進できた。(研究) 堀助教がバイオメディカルサイエンスセンター、小浴助教が生体調節機構研究部、田畑翔太朗院生・岡村雅院生が生化学教室と共同研究を行っている。臨床を多角的な視点から見するには他教室との共同研究は大切である。また、臨床研究や治験も研究志向病院として重要である。(教育) 堀助教と田中助教が博士号を取得した。内科専門医を岡村雅、武田里美、横矢悠馬が、血液専門医を田畑翔太朗が取得した。当科をローテートしてくれた初期研修医は 22 人である。今後の活躍を期待している。学部学生の教育では、本学の医師国家試験合格率が振るわず教授会で問題となっている。医学部に入学した学生を医師に育てるのは医学部の必要条件であり、合格率低迷への対策は喫緊の課題である。教員の皆さんには血液疾患関連の国家試験問題を配布して国家試験を意識した講義や試験問題作成を心がけてもらっている。また、実習を効果的に行うために、実習前半に学生に進級試験を復習させることにした。

今年度は長く医局運営を支えてくれた花井宏実さん、および、当科の最初の HCTC として活躍していただいた上田かやさんが 3 月末で退職された。心から感謝申し上げます。5 西病棟の野口理恵師長も異動である。野口師長にはハードな職場をリードしていただいた。有難うございました。3 月からは土谷波花さんが秘書業務を一人で担当している。秘書業務の負担軽減を考えている。病棟・外来・輸血部の皆さんも有難うございます。今年度は教授就任 10 年が経過した年であった。和歌山市医師会だよりに「年男」の所感を書いたときにこれまでの経過をまとめたので次ページに掲載した。

令和 7 年 3 月
園木孝志

ー和歌山市医師会だより（第703号、令和7年1月10日発行）に掲載された「年男」の所感で、適切なタイトルを思いつかなかったので単に「ご挨拶」としたー

ご挨拶

和歌山県立医科大学医学部血液内科学講座 園木孝志
皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくおねがい申し上げます。私が和歌山県立医科大学（和医大）に奉職して、本年で21年が経過します。思い返しますと、2004年3月31日夕方に熊本を発ち、関西空港近くのワシントンホテルに一泊して、朝から高速バスでJR和歌山駅に向かい、バスで4月1日午前9時前に和医大医学部に到着しました。阪和道では高速バスの車窓から山桜がちらほら見えておりました。受け持った最初の患者さんは熊本出身で、多少の縁を感じました。以来、和医大や本県の血液診療・研究の底上げに努めてまいりました。この間、診療においては、同種造血幹細胞移植の安定した提供、血液診療担当医の地域基幹病院への派遣、CAR-T療法の導入、ができたものと思っております。また、研究においては、若手が博士号を取得できるようになりましたし、若手の国内外留学もできるようになりました。和医大血液内科医局の医局員・関係者をはじめ、各方面の皆様方のご支援の賜物であると深く感謝しています。今後も診療・教育に加えて、診療につながる研究をもう一段レベルアップさせたいと思っております。

さて、せっかくの機会ですので、和医大紀三井寺キャンパスにおける私の“お気に入り”を紹介したいと思います。医学部研究棟の東側（紀三井寺側）には池と庭があり、その庭には「かめ」「とぶ心」「象が白熊になっちゃった」と名付けられた小さなフィギュアがあります。以前は不思議な形をしたフィギュアだなと感じておりましたが、碑文を読んでその由来がわかりました。これらは1999年に「和歌山県立医大にエイブルアートを贈る会」が寄贈された、盲学校の生徒による作品でした。碑文には「目をとじてさわってみてください」と書かれています。私も目をとじてさわったことがあります。目の不自由な子供たちの、病院職員・学部職員・学生・患者さん・ご家族に向けられた温かい気持ちが伝わってまいりました。3つのフィギュアを見るたびに、和医大に対する県民の皆様のご期待・ご支援を思い返しております。私は、医学部学生にも「是非さわってみてください」と薦めていますが、どれだけの学生が実行してくれたかはわかりません。良いことも日常の風景にうもれてしまうと気づきにくくなるのかもしれない。

この21年間で、初期臨床研修の法的義務化、専門医制度の導入、COVID19パンデミック、医師の働き方改革といった医学教育や医療の大きな変革がありました。これからも変革は続くものと思います。大切なものは身近に存在していることを自覚して、変革に対応して参りたいと思っております。先生方には和歌山県立医科大学血液内科学講座を引き続きご支援・ご鞭撻いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



左から順に、「かめ」「とぶ心」「象が白熊になっちゃった」

2 教室現況

(1) 教室員

医局	教授	園木 孝志	
	講師	村田 祥吾	
	講師(地域医療支援センター)	蒸野 寿紀	(～2025.3 月 31 日まで)
	講師(輸血部)	細井 裕樹	
	助教	山下 友佑	(2024.7 月～海外留学)
	助教	堀 善和	(2025.3 月 31 日まで)
	助教	田中 颯	
	助教	小浴 秀樹	(2024. 7 月 1 日から)
	学内助教・大学院生	田畑 翔太朗	
	学内助教	榊 絢朱	
	学内助教・大学院生	岡村 雅	(2024. 4 月 1 日から)
	学内助教	寺本 寛	(2024. 4 月 1 日から)
	学内助教	天野 雄登	(2024. 6 月 30 日まで)
	学内助教	松本 藍	
	学内助教	曾我部 槇子	(2024. 4 月 1 日から)
	医局秘書	花井 宏実	(2025.3 月 31 日まで)
	医局秘書	土谷 波花	
輸血部	主任	堀端 容子	
	主任	中島 志保	
	主査	富坂 竜矢	
	副主査	山本 裕也	
	医療技師	玉置 綺良理	
	移植コーディネーター	上田 かやこ	(2025.3 月 31 日まで)
	移植コーディネーター	山本 梨菜	

(2) 人事異動

採用

助教	小浴 秀樹	(2024. 7 月 1 日～)
学内助教	岡村 雅	(2024. 4 月 1 日～)
学内助教	寺本 寛	(2024. 4 月 1 日～)
学内助教	曾我部 槇子	(2024. 4 月 1 日～)

配置換え・退職

講師	蒸野寿紀	(～2025.3 月 31 日) 地域医療支援センター 教授へ
助教	堀 善和	(～2025.3 月 31 日) 腫瘍センターへ
学内助教	天野 雄登	(～2024.6 月 30 日)紀南病院へ
移植コーディネーター	上田 かやこ	(～2025.3 月 31 日)退職
医局秘書	花井 宏実	(～2025.3 月 31 日)退職

(3) 令和6年度ローテート初期研修医一覧

氏名	期間	年次
大川 将明	2024年4月～6月	1年目
竹内 悠里子	2024年4月～6月	1年目
三並 桃佳	2024年4月～6月	1年目
宮崎 皓平	2024年4月～6月	1年目
石井 宏弥	2024年7月～8月	1年目
井上 涼介	2024年7月～8月	1年目
柿本 優介	2024年7月～8月	1年目
東又 啓子	2024年7月	1年目
八百 裕太	2024年7月～9月	1年目
坂部 慶人	2024年9月	1年目
下川 紗季	2024年9月	1年目
中畑 紅里	2024年9月	1年目
百名 孝太	2024年11月	1年目
武内 簾	2024年12月	1年目
福岡 一響	2024年12月	1年目
和中 千佳	2024年12月	1年目
澳 一磨	2025年1月	1年目
野田 陽生	2025年1月	1年目
和田 冴生	2025年2月	1年目
濱口 曜光	2025年2月	1年目
中畑 陽菜	2025年3月	1年目
小西 朋樹	2025年3月	2年目

当科をローテートしてくれた初期研修医の皆さんです。皆さん大変誠実に診療していました。成長を期待しています。

園木孝志

(4) 令和6年度 業務分担 2024.10月～

1. 科長・教育主任:園木 (副科長:村田)	・講義, 試験の管理, 学生オーガナイザー(4年生)、卒業試験(6年生)、依頼問題作成 ・病棟実習(必修や選択実習、症例選択)の支援(病棟医長と協力) ・臨床実習ディレクター ・更正医療担当 ・和歌山県原爆被爆健康管理手当て等認定医 ・和歌山県身体障害者福祉専門分科会審査部会委員 ・和歌山県エイズ対策推進協議会委員
2. 医局長:村田 (副医局長:細井)	・秘書支援(採用と更新と検診、薬説明会、年報、home page、研究費申請) ・研究会(主宰の講演会、学会) ・行事(入局案内、歓送迎会、花見、暑気払、忘年会、医局旅行) ・会議の主導(医局会議) ・研究打合せ、学会予行、研究費やIRB申請の支援 ・リスクマネージャー ・移植調整医師
3. 病棟医長:細井 (副病棟医長:堀)	・病床運営(入・退院、主治医指名、他科交渉) ・管理(回診、学生実習、当直医・日誌、レセプト、臨床試験、剖検) ・検討会(死因検討会) ・危機管理(医療ミス、事件、感染対策、緊急連絡、災害訓練、投書対応) ・感染対策マネージャー ・保険請求担当(DPC,入院) ・薬事委員会 ・保険請求担当者会議 ・移植調整医師 ・症例検討会(CCポイントコメント) ・抄読会
4. 外来医長:蒸野 (副外来医長:田中)	・診療担当医表、レセプト、外来診療用コンピューターの管理 ・外来の危機管理(苦情、事故、外来診療相談・クラーク指導責任医師など) ・移植調整医師 ・保険請求担当(外来) ・オーダーリングシステム入力責任者(主) ・予約メンテナンス管理責任者(主)
5. 研究主任:細井	・研究室運営(機器や試薬管理など基盤整備と配分、安全指導など) ・試薬管理責任者
6. その他	病院委員会 医療安全推進部(医療安全推進委員会) 感染制御部(感染制御部運営委員会・感染予防対策委員会) 薬剤部(薬剤部運営委員会・薬事委員会) 輸血部(輸血療法委員会) リハビリテーション部(リハビリテーション部運営委員会) 医事課(エイズ診療対策委員会・脳死臓器移植対策委員会) 経理課((科長会、腫瘍センター運営、腫瘍センター放射線治療、中央手術部運営、放射線安全、病院機能評価認定更新対策、 医療の質向上対策委員会) 医学部委員会 研究推進課(研究活動活性化委員会、遺伝子組換え実験安全委員会委員、遺伝子解析研究に関する倫理審査) 地域医療支援センター(内科専門研修プログラム研修委員会) 臨床研究センター(治験審査委員会委員長、治験運営委員会、臨床研究ガバナンス委員会)
1) 園木	
2) 村田	総務課(人権・同和対策推進協議会)、薬剤部(医薬品安全管理委員会)
3) 細井 (輸血部次長)	・各科代表者薬事委員 病院委員会 薬剤部(レジメン審査委員会(副)) 輸血部(輸血療法委員会) 経理課(腫瘍センターがんゲノム医療委員会) 研究推進課(共同利用施設管理運営委員会)
4) 蒸野 (地域医療支援センター/副センター長) (卒後臨床研修センター/副センター長)	・移植調整医師 ・卒後臨床研修センター(内科専門研修プログラム研修委員会・代表指導医)
5) 田中	・職場研修委員 ・病理合同カンファレンス ・医事課(クリティカルパス運営委員会)
6) 小浴	・経理課(腫瘍センター薬物療法委員会・がんゲノム医療委員会) ・薬剤部(レジメン審査委員会)

3 スケジュール表

- (1) 医学部生の病棟臨床実習
- (2) 血液内科診療の医師勤務表
- (3) 5階西病棟の当直医表（3月）
 - (1) - (3) は次ページ以降に収録。

(4) 医局行事

1) 週間

月曜日 医局会（連絡事項・スケジュール確認）、チャートカンファレンス
火曜日 病棟回診、リサーチカンファレンス（隔週）
木曜日 カンファレンス（MGH）、HIV カンファレンス

2) 月間

病理合同カンファレンス
移植カンファレンス
症例検討会
診療会議

(1) 医学部生の病棟臨床実習

・1週目

第 1 週目		血液内科									
集合場所：研究棟10階 血液内科医局（内線：5453） <u>総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の協議机に提出すること。</u> <u>（訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）</u> コピー機は医局にあります。両面コピーしてください。 ※医局PCや医局コピー機へのUSB接続は不可です。											
日付	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
① (月)	(他科)					(他科)					
① (火)	(他科)					(他科)					
① (水)	(他科)					13:00- オリエンテーション (園木教授) 医局	症例学習				
① (木)		9:00- ※外来・内科診察 (園木教授) 中央棟3階 血液内科外来				症例学習	14:30-16:00 輸血部実習 中央棟3階 輸血部			症例学習	
① (金)		症例学習				症例学習					

1. 「※外来・内科診察」は随時、疾患について討論を行う（園木）
2. 自発性、判断、コミュニケーションの能力を評価する。
3. 病棟での患者診察は、マスク着用の上、15分以内で終了する。

・2週目

第2週目

血液内科

集合場所：研究棟10階 血液内科医局（内線：5453）

総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の協議机に提出すること。

（訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）

コピー機は医局にあります。両面コピーしてください。

※医局PCや医局コピー機へのUSB接続は不可です。

日付	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
② (月)		9:00- レポート進捗 状況報告 (園木教授) 医局	症例 学習				症例学習		16:00- チャート カンファレンス 5西CR	
② (火)	8:45- 入院患者回診 5西病棟 <u>回診後、直ちに外来へ</u>	※外来・内科 診察 (園木教授) 中央棟3階 血液内科外来				症例 学習	14:00-15:00 造血幹細胞移植 (村田講師) 5西CR	症例学習		
② (水)		症例学習				13:20-14:20 血球形態 (園木教授) 教授室	15:00-16:00 骨髓生検 シュミレーション (蒸野講師・田畑先生) 5西CR	症例学習		
② (木)	8:00-8:30 カンファレンス(cc/MGH)医局	9:00- ※外来・内科診察 (園木教授) 中央棟3階 血液内科外来				症例学習	15:00-16:00 HIV感染症 (園木教授)	症例学習		
② (金)	症例学習					症例学習		16:00-17:00 総括/レポート 提出 (園木教授)		

教官から指摘を受けた箇所を
訂正し、必ず医局に**本日中**に
提出すること。

(2) 令和6年度 臨床実習 授業評価

(回答者数)															86 人		
質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	総合	12	13	14	15	16
血液内科学	4.40	4.44	4.36	4.38	4.31	4.26	4.41	4.34	4.47	4.38	4.40	4.38	4.35	4.13	4.12	4.24	4.12
全体平均	4.21	4.36	4.27	4.28	4.24	4.17	4.34	4.30	4.35	4.37	4.36	4.30	4.35	4.10	4.07	4.20	4.10

総合	質問項目1～11の平均
	質問項目1～11の内、最大値
	質問項目1～11の内、最小値

【質問内容】 (まったく思わない①……②……③……④……⑤とも思う)

A 指導医について

- 1 指導医と討論する時間が充分にあった。
- 2 親切に接してくれた。
- 3 問題点を見つけるよう適切に指導してくれた。
- 4 時間を厳守するよう適切に指導してくれた。
- 5 実習中の最終目標を明確に示してくれた。
- 6 毎日の目標を示してくれた。
- 7 医学的知識について適切に指導してくれた。
- 8 医学的技能について適切に指導してくれた。
- 9 知識・技能について誤りがあった場合、注意や指導してくれた。

B セミナーについて(行われなかった場合は記入不要)

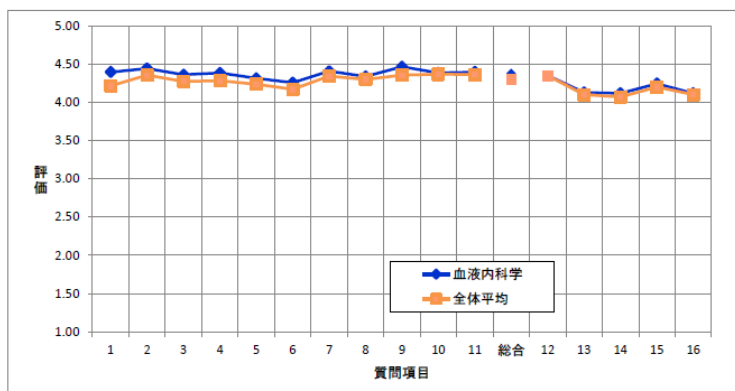
- 10 よく準備された教材を使用してくれた。
- 11 病態との関連について適切に説明してくれた。

C 自己評価

- 12 知識が増えた。
- 13 基本的技能ができるようになった。
- 14 診断・治療の選択が可能になった。
- 15 症例の提示(発表)ができるようになった。

D 臨床実習の総合的評価 (悪い①……②……③……④……⑤良い)

- 16 臨床実習を総合的に評価してください。



(3) 血液内科診療の医師勤務表

診療担当医					
2025.1.1~					
	月	火	水	木	金
診察室 (1)	村 田	園 木 ①② (9:30,10:00)	蒸 野	園 木①②	園 木 (9:30-12:00)
診察室 (2)	小 浴	西 川	堀	村 田	西 川
診察室 (3)	小泉祐介	小 浴	田 畑	榊	森本将矢
診察室 (4)	田 中 + (新患) ①②	ポリクリ (9:30-10:30) 田 中 (11:00~)	村 田 (新患) ①②	ポリクリ (9:30-10:30) 細 井 (11:30~) (新患) ③ (11:00)	蒸野 (新患) ①② (9:30, 10:00) ※当番内科 (1回/4週)
診察室 (5)					
予診室					
処置係	曾我部	寺 本	曾我部	岡 村	寺 本
他病棟当日診療依頼	①小浴 ②岡村	①田畑 ②小浴	①曾我部 ②田畑	①岡村 ②寺本	①寺本 ②曾我部
予約外当日外来新患	田 中	小 浴	村 田	細 井	蒸 野
フォローアップ外来		田 中・診察室 (4) (第2火曜日)	村 田・診察室 (4) (第3木曜日)	細 井・診察室 (4) (第4木曜日)	西 川・診察室 (4) (第1金曜日)
マルク診断	小 浴	細 井	田 畑	村 田	田 中
医局行事	医局会 (14:30~15:00) (入・退院、連絡等) 病理検討会 (第1 16:00~16:30) 移植検討会 (16:00~19:00)	病棟回診 (8:30~9:30)	くすりの説明会 (12:30-12:45) (第2、第4)	MGH (8:00~8:30) (学生実習2週目) 症例検討会 (17:00~) (研修医のいる月の第1 or 第3) 移植検討会 (第2 17:30~) 移植検討会 (第4 17:00~) 診療会議(教員) (第4 17:30~) 学会予行 (随時 17:00~)	
日中平日当番PHS係 (8:45~17:30)	田 畑	寺 本	曾我部	岡 村	曾我部
	月	火	水	木	金
外勤(午前)	---	蒸 野 榊 (~13:00)	園 木 西 川 田 中 岡 村	小 浴 田 畑 (~14:00)	村 田 細井 堀
外勤(午後)	---	蒸 野	西 川 田 中 寺 本	曾我部	村 田 細 井 堀
医局長	正 村 田 副 細 井	副 小 浴	※A・B・Cの導入 予診室 (1) 水・金：終日可 月・火・木：10-12時不可		
病棟医長	細 井	小 浴	※当番内科ローテーション 蒸野→田畑→岡村→寺本の順番 ※化学療法day2の確定 月～金 は診察室 (2) へ入れる		
外来医長	田 中	蒸 野	※転科を要する緊急の紹介は病棟医長に相談 (水曜の田畑Dr.病棟紹介)		

2025/3/26

(4) 5 階西病棟の当直医表

2025.3

3月当直表						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						3月1日 曾我部
3月2日 田 中	3月3日 細 井	3月4日 堀	3月5日 村 田	3月6日 寺 本	3月7日 奥田 (田畑)	3月8日 岡 村
3月9日 細 井	3月10日 村 田	3月11日 堀	3月12日 栗山 (村田)	3月13日 田 中	3月14日 寺 本	3月15日 田 畑
3月16日 蒸野	3月17日 小 浴	3月18日 細 井	3月19日 堀	3月20日 曾我部	3月21日 田 畑	3月22日 村 田
3月23日 小 浴	3月24日 田 中	3月25日 堀	3月26日 曾我部	3月27日 田 畑	3月28日 蒸野	3月29日 岡 村
3月30日 寺 本	3月31日 小 浴					

4 主な活動内容

(1) 学会

1) 全国学会

西川彰則.「ミリ波センサーを用いた在宅輸血危険行動検知システムの開発」.第72回日本輸血・細胞治療学会学術総会, 2024.5.30-6.1.東京

西川彰則, 三谷早智子, 三浦晃子, 赤坂浩司「患者付添人によるバイタルサイン測定結果自動通知を利用した在宅輸血の安全な見守りの検証」第72回日本輸血・細胞治療学会学術総会, 2024.5.30-6.1.東京

細井裕樹、蒸野寿紀、太根美聡、小浴秀樹、村田祥吾、西川彰則、園木孝志：「縦隔原発大細胞型B細胞リンパ腫とリンパ芽球性リンパ腫での上大静脈血栓症の経過の検討」第46回日本血栓止血学会学術集会 2024.6.13-15 金沢

Kazuki Yoshimura, Hideki Nakasone, Masaharu Tamaki, Hiroki Hosoi, Kazuaki Kameda, Naoyuki Uchida, Noriko Doki, Takahiro Fukuda, Satoshi Yoshihara, Yasuo Mori, Hirohisa Nakamae, Masatsugu Tanaka, Yuta Katayama, Makoto Yoshimitsu, Fumihiko Ishimaru, Junya Kanda, Yoshiko Atsuta, Kimikazu Yakushijin. The impact of conditioning intensity on second allogeneic hematopoietic transplantation for release after first transplantation. 29th Congress of the European Hematology Association, Madrid, Spain, 13-16 June, 2024

小浴秀樹,「MALTリンパ腫に対するリツキシマブ初回投与後に発症した急性腸間膜虚血症の一例」, 第86回日本血液学会学術集会,ポスター発表,2024.10.11 京都

Jun Nakata, Daisuke Motooka, Yoshiki Nakae, Manabu Kawakami, Yuta Katayama, Imanaka, Junya Kuroda, Taku Tsukamoto, Takayuki Ikezoe, Masahiko Fukatsu, Atsushi Satake, Hideaki Yoshimura, Takashi Sonoki, Hiroki Hosoi, Norimitsu Kadowaki, Osamu Imataki, Shigeki Ito, Tatsuo Oyake, Kazunori Murai, Syuichi Ota, Masayoshi Masuko, Yasuhiko Shibasaki, Tatsuya Imi, Makoto Onizuka, Yasunori Ueda, Hitoshi Hanamoto, Kensuke Usuki, Noboru Asada, Yoshihiro Oka, Haruo Sugiyama: 「Evaluation of 5th edition WHO classification and latest ELN risk classification from Japanese data」 第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11-13 京都

Yuichi Tochino, Hideki Kosako, Yusuke Yamashita, Satomi Takeda, Shotaro Tabata, Hiroki Hosoi, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Takashi Sonoki: 「Successful cord blood transplantation for MDS with Behcet's disease-like symptoms: A case report」 第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11-13 京都

Satomi Takeda, Hiroki Hosoi, Takayuki Hiroi, Shotaro Tabata, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Takashi Sonoki: 「The incidence of COVID-19 in outpatients with lymphoma during or after chemotherapy」 第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11-13 京都

Tadashi Okamura, Hideki Kosako, Ikuro Tanigawa, Kan Teramoto, Yuka Okabe, Yuma Yokoya, Masaya Morimoto, Toshiki Mushino, Hiroki Hosoi, Jun Nakata, Yuko Doiguchi, Daisuke Motooka, Takashi Sonoki: 「Lineage switch evoked by RAD21 mutation and RBM15::MKL1 in an atypical chronic myeloid leukemia case」 第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11-13 京都

Misato Tane, Hiroki Hosoi, Ken Tanaka, Yoshikazu Hori, Yusuke Yamashita, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Akinori Nishikawa, Takashi Sonoki: 「Acute thrombocytopenia after obinutuzumab administration in a patient with follicular lymphoma」 第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11-13 京都

Misato Tane, Yuka Okabe, Hideki Kosako, Tadashi Okamura, Ikuro Tanigawa, Yuichi Tochino, Hiroki Hosoi, Takashi Sonoki: 「A case of IVLBCL in a rheumatoid arthritis patient treated with upadacitinib」 第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11-13 京都

Yuto Amano, Yoshikazu Hori, Ken Tanaka, Yusuke Yamashita, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Hiroki Hosoi, Takashi Sonoki: 「A retrospective analysis of allogeneic HSCT for ATL from a single center experience」 第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11-13 京都

田畑翔太朗, 山下友佑, 井内陽子, 森田修平, 小浴秀樹, 高木伴幸, 眞鍋史乃, 松岡孝昭, 園木孝志, 田村志宣, 井原義人「血清C-マンノシル化トリプトファンは本態性血小板血症患者における骨髓線維化移行のバイオマーカーになり得る」 第97回日本生化学会大会, Late-Breaking Abstracts 1P-428, 2024.11.06-08 横浜

西川彰則「医療情報連携、パーソナルヘルスレコードを用いた遠隔LTFUの未来」 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.2.27-3.1 大阪

木村俊一、川村俊人、遠矢嵩、沖中敬二、細井裕樹、内田直之、土岐典子、福田隆浩、田中正嗣、西田徹也、長谷川祐太、坂田（柳元）麻実子、神田善伸、吉満誠、鬼塚真仁、大引真理恵、熱田由子、薬師神公和：「同種造血細胞移植におけるレテルモビル予防投与と細菌・真菌感染症との関連：JSTCT合併症WG」 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025.2.27-3.1 大阪

水野昌平、細井裕樹、高見昭良、河田岳人、土岐典子、武田航、田中正嗣、西田徹也、内田直之、長谷川祐太、澤正史、太田秀一、鬼塚真仁、中前博久、浅田騰、福田隆浩、吉満誠、神田善伸、大引真理恵、熱田由子、小沼貴晶、柳田正光：「本邦の急性骨髄性白血病における染色体リスクと同種造血細胞移植成績」 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025.2.27-3.1 大阪

寺本昌弘、下村良充、細井裕樹、柳田正光、水野昌平、内田直之、森康雄、土岐典子、伊藤歩、片山雄太、太田秀一、中前博久、衛藤徹也、鬼塚真仁、諫田淳也、福田隆浩、熱田由子、小沼 貴晶：「同種造血幹細胞移植後に再発した AML 患者に対する非寛解期再移植の治療成績」 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025.2.27-3.1 大阪

榑絢朱、蒸野寿紀、田中颯、弘井孝幸、堀善和、細井裕樹、村田 祥吾、西川 彰則、園木 孝志：「CAR-T 細胞療法後に local CRS として喉頭浮腫が出現した一例」 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025.2.27-3.1 大阪

岡村雅、細井裕樹、太根美聡、榑絢朱、田畑翔太朗、堀善和、蒸野寿紀、村田祥吾、西川彰則、園木孝志：「単施設での近年の同種移植における HCT-CI の意義検討」 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025.2.27-3.1 大阪

2) 地方学会

松本 藍, 田中颯, 村田祥吾, 堀善和, 山下友佑, 細井裕樹, 蒸野寿紀, 西川彰則, 園木孝志: 「再発時に異なる骨髓像を認めた複雑核型を伴う急性前骨髄性白血病の1例」 第120回 近畿血液学地方会. 2024 6.8. 大阪

曾我部慎子, 田中颯, 村田祥吾, 細井裕樹, 園木孝志: 「BRAF^{V600E}遺伝子変異を有するErdheim-Chester病に対してBRAF阻害薬とMEK阻害薬の併用療法を施行した1例」 第121回 近畿血液学地方会. 2024.11.16. 京都

蒸野寿紀：「和歌山県の地域枠制度と卒前卒後教育の取り組みについて」、日本プライマリ・ケア連合学会第37回近畿地方会 2024.11.17 和歌山

東又啓子、岡村雅、堀善和、細井裕樹、村田祥吾、蒸野寿紀、園木孝志、山野由紀子：「非典型溶血性尿毒症症候群との鑑別を要した悪性高血圧による血栓性微小血管症の1例」 第246回日本内科学会近畿地方会2024.12.14 大阪

天野雄登、棚野祐一、寺本寛、榑絢朱、太根美聡、堀善和、細井裕樹、園木孝志：「当科におけるCAR-T細胞療法の成績」第52回和歌山悪性腫瘍研究会 2024.12.14 和歌山

西川彰則「県内の医療ネットワークサービス 青州リンクについて」第10回日本がんサポーターブケア学会学術集会プレイベントリレーセミナー, 2025.1.25 和歌山

宮崎皓平、寺本寛、天野雄登、蒸野寿紀、堀善和、園木孝志：「治療抵抗性ホジキンリンパ腫に免疫チェックポイント阻害薬と化学療法の交代療法が奏効した一例」第247回日本内科学会近畿地方会 2025.3.8 京都

(2) 学術論文

1) 和文原著

ICT を利用した在宅輸血患者の安全な見守りシステムの開発.西川彰則.和歌山医学 75(3):112-115, 2024.

DX(デジタルトランスフォーメーション)による造血幹細胞移植の未来.西川彰則.臨床血液 65(5):412-419, 2024.

健常ドナーからの末梢血幹細胞採取前後の健康調査におけるWebアプリケーションの有用性.
幕内陽介, 岡村浩史, 梅本由香里, 西川彰則, 田中里苗, 佐藤朱律, 酒徳一希, 井戸健太郎, 堀内美令, 久野雅智, 高桑輝人, 西本光孝, 中嶋康博, 中前美佳, 矢野真吾, 日野雅之, 中前博久.臨床血液 65(5):321-329, 2024.

2) 英文総説

Tane M, Kosako H, Sonoki T, Hosoi H*. TAFRO syndrome and COVID-19. Biomedicines 12:1287, 2024

3) 英文原著

Tabata S, Yamashita Y, Inai Y, Morita S, Kosako H, Takagi T, Shide K, Manabe S, Matsuoka TA, Shimoda K, Sonoki T, Ihara Y, Tamura S. C-Mannosyl tryptophan is a novel biomarker for thrombocytosis of myeloproliferative neoplasms. Sci Rep. 2024 Aug 14;14(1):18858. doi: 10.1038/s41598-024-69496-z. PMID: 39143127; PMCID: PMC11324734.

Yamada Y, Miyoshi H, Takeuchi M, Nakashima K, Yamada K, Kato T, Tanaka K, Kohno K, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Ohshima K. TIGIT expression on neoplastic cells is a poor prognostic factor for adult T-cell leukaemia/lymphoma. Pathology. 2024 Dec;56(7):993-999. doi: 10.1016/j.pathol.2024.06.003. Epub 2024 Aug 12. PMID: 39266421.

Hori Y, Hosoi H, Hiroi T, Wan K, Murata S, Morimoto M, Mushino T, Nishikawa A, Sonoki T. Utilizing Clinical Transformation Criteria for Prognostic Stratification in Follicular Lymphoma Prior to Initial Immunochemotherapy. Hematol Rep. 2024 Oct 4;16(4):612-623. doi: 10.3390/hematolrep16040060. PMID: 39449303; PMCID: PMC11503408.

Hosoi H, Hori Y, Fukutsuka K, Osuga M, Koh Y, Mushino T, Hanaoka N, Yamamoto N, Ohno H, Sonoki T. Detection of the JAK2 V617F Mutation in Urinary Cell-free DNA in Patients with Myeloproliferative Neoplasms. Intern Med. 2024 Jul 15;63(14):1987-1993. doi: 10.2169/internalmedicine.2837-23. Epub 2023 Nov 27. PMID: 38008450; PMCID: PMC11309855.

Hosoi H, Okamura T, Tabata S, Minoura N, Wan K, Hirayasu K, Murata S, Mushino T, Sonoki T. Favorable correlation between neutrophil percentages obtained using automated hematology analyzers and microscopic examinations in malignant lymphoma patients receiving chemotherapy. Ann Hematol. 2025 Mar 20. doi: 10.1007/s00277-025-06313-1. Epub ahead of print. PMID: 40111499.

Iwamoto R, Nishikawa T, Musangile FY, Matsuzaki I, Sagan K, Nishikawa M, Mikasa Y, Takahashi Y, Kojima F, Hori Y, Hosoi H, Mori H, Sonoki T, Murata SI. Small sized centroblasts as poor prognostic factor in follicular lymphoma - Based on artificial intelligence analysis. *Comput Biol Med.* 2024 Aug;178:108774. doi: 10.1016/j.compbiomed.2024.108774. Epub 2024 Jun 18. PMID: 38897149.

Shimazu Y, Kanda J, Suzuki K, Wada A, Kikuchi T, Ikeda T, Tsukada N, Miwa A, Itagaki M, Kako S, Nishiwaki K, Ota S, Fujiwara SI, Kataoka K, Doki N, Sawa M, Hiramoto N, Nishikawa A, Imai T, Ichinohe T, Kanda Y, Atsuta Y, Kawamura K. The impact of daratumumab pretreatment on multiple myeloma patients undergoing autologous transplantation. *Cancer Sci.* 2024 Jul;115(7):2384-2395. doi: 10.1111/cas.16198. Epub 2024 May 16. PMID: 38757410; PMCID: PMC11247619.

・症例報告

1) 和文

該当なし

2) 英文

Tane M, Hosoi H*, Kosako H, Yamano Y, Hiroi T, Murata S, Mushino T, Araki SI, Sonoki T. Short-term corticosteroid therapy consecutive to hemodialysis and charcoal hemoperfusion for methotrexate-induced acute kidney injury in an elderly lymphoma patient. *Curr Probl Cancer Case Rep* 13:100282, 2024

Tane M, Kosako H, Hosoi H, Furuya Y, Hori Y, Yamashita Y, Murata S, Mushino T, Sonoki T. Aortitis after switching short-acting granulocyte colony-stimulating factors in a lymphoma patient with HLA-B52. *Int J Hematol.* 2024 May;119(5):608-612. doi: 10.1007/s12185-024-03744-w. Epub 2024 Mar 23. PMID: 38521841.

Tane M, Hosoi H*, Hiroi T, Murata S, Mushino T, Sonoki T. Obinutuzumab-induced acute thrombocytopenia mimicking immune thrombocytopenia in a patient with follicular lymphoma. *Intern Med.*, in press

Ibe M, Tamura S, Kosako H, Yamashita Y, Ishii M, Tanaka M, Mishima H, Kinoshita A, Iwabuchi S, Morita S, Yoshiura KI, Hashimoto S, Nakao N, Inoue S. Familial schwannomatosis carrying *LZTR1* variant p.R340X with brain tumor: A case report. *Mol Genet Metab Rep.* 2024 Jun 18;40:101107. doi: 10.1016/j.ymgmr.2024.101107. PMID: 38983105; PMCID: PMC11231591.

Hori Y, Hosoi H, Mushino T, Okabe Y, Sakaki A, Yoshida K, Tochino Y, Yamashita Y, Sonoki T. Central nervous system relapse after combination therapy including polatuzumab vedotin in patients with diffuse large B-cell lymphoma. *Leuk Res Rep.* 2024 May 31;21:100467. doi: 10.1016/j.lrr.2024.100467. PMID: 38939513; PMCID: PMC11208936.

3) レター

Tabata S, Hosoi H, Wan K, Sakaki A, Mushino T, Murata S, Tomiyama Y, Sonoki T. Comparison of platelet transfusion effectiveness between *Helicobacter pylori*-positive and -negative immune thrombocytopenia. *Br J Haematol.* 2024 May;204(5):1953-1957. doi: 10.1111/bjh.19413. Epub 2024 Mar 24. PMID: 38522847.

Hosoi H, Tane M, Sogabe M, Iwamoto R, Minoura N, Murata S, Mushino T, Nishikawa A, Murata SI, Sonoki T. Flower-Shaped Plasma Cells in Multiple Myeloma with Morphological Heterogeneity. *Diagnostics (Basel).* 2024 Oct 14;14(20):2285. doi: 10.3390/diagnostics14202285. PMID: 39451608; PMCID: PMC11507336.

Hosoi H, Tane M, Okamura T, Tabata S, Wan K, Murata S, Mushino T, Nishikawa A, Sonoki T. Reduction in Length of Hospital Stays for Allogeneic Hematopoietic Stem-Cell Transplantation in the Letemovir Era. *Transpl Infect Dis.* 2025 Feb 21:e70008. doi: 10.1111/tid.70008. Epub ahead of print. PMID: 39982804.

(3) 著書（単行本、シリーズもの含む）

青洲リンクにおける地域医療連携でのPHR運用.西川彰則.ITvision No.51（月刊インナービジョン 2024年7月号付録）2024年6月25日発行

ミリ波センサーを用いたプライバシーに配慮した転倒検知技術の検証と臨床応用の期待.白石 壮大, 西川彰則.新医療 51(7):102-106, 2024.

蒸野寿紀：出版活動支援小委員会 活動・支援内容のご紹介、日本輸血・細胞治療学会ニュースレター第26号、2024年7月発行

(4) 研究費、助成金

令和6年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「科学的エビデンス等に基づき医療環境に応じた適切な輸血療法実施についての研究」研究代表者：松本雅則（奈良県立医科大学）、金額7,300千円、研究分担者：園木孝志、蒸野寿紀、金額：200千円

AMED: 中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第III相試験 分担研究者

西川彰則（分担）：令和6年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業

西川彰則（分担）：令和6年度厚生労働科学研究費補助金 移植医療基盤整備研究事業
「効率的でドナーの負担軽減に資する末梢血幹細胞採取法の確立と非血縁者間末梢血幹細胞移植の治療成績向上のための研究」

細井裕樹：令和6年度 科学研究費助成事業（若手研究）、「microRNAとスーパーエンハンサーに着目した悪性リンパ腫のPVT1の役割解明」

和歌山県立医科大学 特定研究助成プロジェクト（組織横断型）(24TS04), 2024年度, 課題名「薬局での実施可能な簡便で効果的な減酒支援プログラムの開発と効果の検証」, 主たる研究者：岡田浩, 共同研究者：蒸野寿紀、伊藤達也, 金額：200千円.

文部科学省科学研究費補助金. 基盤研究(C) (22K11122), 2022～2024年度, 課題名「中山間地域の独居高齢者の食環境評価を用いた地域共生包括的食生活支援プログラム開発」, 研究代表者：中井あい, 研究分担者：森岡郁晴、川村晃右、蒸野寿紀, 金額：4,030千円. 分担金：260千円.

5 診療実績

(1)	外来	患者総（のべ）数（一時退院後を含む）	10642 名
		新規患者数（病院集計）	245 名
(2)	入院	患者総（のべ）数（一時退院後を含む）	598 名
	退院	患者総（のべ）数（一時退院を含む）	612 名

外来新規患者の疾患名と患者数(疑い症例を含む) 2024 年 4 月～2025 年 3 月

1)	白血病	
	AML	15
	CMML	1
	PCL	2
	急性白血病(その他)	3
	CLL	1
	ALL	5
	慢性骨髄単球性	1
	CML	3
2)	MDS	45
3)	MM	17
4)	リンパ腫	
	悪性リンパ腫(その他)	29
	DLBCL	44
	HGBL	1
	MALT	17
	MCL	2
	HL	3
	IVLBCL	1
	FL	13
	AITL	3
	B 細胞リンパ腫	3
	T 細胞リンパ腫	1
	ATL	5
	PMBL	1
5)	貧血	19
	AA	7
	IDA	13
	大球性貧血	4
	小球性貧血	2
	AIHA	5
	巨赤芽球性貧血	4
	正球性貧血	7
6)	腫脹・腫大・腫瘍	
	頸部リンパ節腫脹	1
	左骨上リンパ節腫脹	1
	反応性リンパ節腫大	1
	リンパ節腫大	10
	炎症性リンパ節腫大	1

	大動脈周囲リンパ節腫大	1
	傍大動脈リンパ節腫大	1
	多発性リンパ節腫大	3
	回盲部リンパ節腫大	1
	骨髄増殖性腫瘍	1
7)	多血症	7
	ET	11
	PV	2
8)	その他	
	ITP	25
	血小板減少	10
	顆粒球減少症	1
	血小板増多症	3
	汎血球減少	10
	好中球減少	3
	血球増多	1
	白血球増多	3
	白血球減少	5
	白血球高値	4
	赤血球増加	4
	血球減少	10
	好酸球上昇	1
	真性赤血球増加症	2
	好酸球増多症	10
	血小板低下	6
	HIV 感染症	9
	アミロイドーシス	4
	AL アミロイドーシス	6
	サルコイドーシス	1
	サラセミア	5
	前立腺癌	1
	胃癌	1
	WM	2
	低 γ グロブリン血症	1
	MGUS	11
	M蛋白血症	3
	M 蛋白陽性	1
	睡眠時無呼吸症候群	1
	骨髄性症候群	1
	非典型的 S 症候群	1
	シェーグレン症候群	1
	不明熱	2
	結核性脊椎炎	1
	梅毒	1

Ig G4 関連疾患	1
慢性心膜炎	1
胸腺腫	1
骨髄繊維症	1
メソトレキセート関連リンパ増殖性疾患	2
血小板無力症	1
血小板放出顆粒異常症	1
骨髄肉腫	1
骨髄癌腫症	2
骨髄疾患	1
寒冷凝素症	1
キャッスルマン病	2
エルドハイムチェスター病	1
ウォンウィルブランド病	3
菊池病	2
血友病 A	1
リンパ球低値	1
HbF 高値	1
WBC 高値	2
WBC 低値	1
SIL2R 高値	1
WBC 低下	2
PTL 低値	1
EB ウイルス伝染性単核症	1
蛋白アルブミン解離	1
CMV-IM	1
HTLV-1 陽性	1
HTLV-1 陽性	1
HTLV-1 キャリア	1
梅毒偽陽性	1
腹痛症	1
APTT 延長	6
リンパ増殖性疾患	1
ビタミン B12 欠乏	1
IMCD	1
MTX-LPD	3
クリオグロブリン血症	1
9) 死亡	13
10) 剖検	0

入院患者疾病別分類(入院のみ、重複あり、疑い症例を含む)

1)	白血病	
	AML	37
	M1	12
	M2	5
	M4	2
	M5b	1
	t-AML	2
	AML-MRC	6
	MPAL	3
	APL	20
	ALL	2
	T-ALL	2
	B-ALL	21
	AMMoL	1
	Ph－ALL	5
	Ph＋ALL	6
	CLL	1
	CML	2
	CMML	3
2)	MDS	26
3)	MM	60
4)	リンパ腫	
	悪性リンパ腫	18
	DLBCL	130
	IVLBCL	3
	HL	5
	AITL	25
	ATL/ATLL	15
	PMBL	4
	FL	20
	cHL	17
	ENKL	1
	BL	4
	LPL	1
	HGBL	8
	MALT	13
	MCL	3
	バーキッドリンパ腫	1
	T細胞リンパ腫	1
	SLL	2
	B細胞リンパ腫	4
5)	貧血	
	巨赤芽球性貧血	1
	AIHA	5
6)	腫大・腫瘍・腫瘤	
	多発性リンパ節腫脹	1

	多発骨腫瘍	1
	脳腫瘍	1
	前継隔腫瘍	1
	腹腔内腫瘍	2
7)	ドナー	
	(骨髄バンクドナー)	
	末梢血幹細胞採取ドナー	3
	骨髄採取ドナー	8
	(血縁ドナー)	
	末梢血幹細胞採取ドナー	8
	骨髄採取ドナー	0
8)	その他	
	真性多血症	3
	リヒター病	1
	HIV	1
	ITP	13
	血小板減少	1
	汎血球減少症	3
	白血球減少	1
	SLL 増悪	1
	TAFRO 症候群	1
	寒冷凝集素症	1
	肺炎	4
	WM	9
	アミロイドーシス	1
	AL アミロイドーシス	2
	右足急性多関節炎	1
	AKI	1
	PMF	1
	BO	1
	FN	1
	エルドハイムチェスター病	1
	移植片対主病	1
	骨髄肉腫	3
	細菌性肺炎	6
	前立腺癌	1
	直腸癌	1
	腎盂尿路上皮癌	1
	高性高血圧	1
	骨髄繊維症	2
	サルモネラ菌血症	1
	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
	帯状疱疹	4
	MTX-LPD	2

6 リーダーレポート

医療 DX と在宅ケアを支える新たな挑戦

医療情報部 西川彰則

2024 年 3 月に和歌山県立医科大学附属病院 医療情報部の教授に着任して以来、目まぐるしい一年を過ごしてまいりました。

まずは、昨年 6 月に血液内科医局の皆様にご教授就任祝賀会を開催していただき、誠にありがとうございました。特に、準備を中心となって進めてくださった村田先生には、お忙しい中ご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

この 1 年は、情報インフラの整備をはじめ、安全性や継続性を高めるための仕組みづくりに尽力した年でもありました。なかでも大きなテーマとなったのは、「病院の診療情報を災害やサイバー攻撃からどう守るか」という課題です。特にランサムウェアなどの脅威が増す中で、情報システムのダウンが診療に与える影響は非常に大きく、患者さんの命に関わる問題です。そこでまず取りかかったのが、システム障害時の対応マニュアルの見直しでした。現場で本当に使える内容にすることを意識して、責任分担や対応フローを整理し、部門間の連携を強化する形で整備を進めました。

また、青洲リンクを活用した、診療情報の保全システムの構築にも取り組みました。これは、たとえ院内のシステムが停止しても、患者さんの基本的な診療情報にアクセスできるようにするというもので、災害時にも安心して医療が提供できる体制づくりに貢献するものです。こうした仕組みを県内の他の医療機関にも広げべく、普及活動にも力を入れました。

ただし、現場での普及には、各病院の経営の厳しさが大きなハードルとなっており、導入や運用にかかる費用がネックになっていました。そこで県庁とも相談を重ねた結果、「わかやま未来応援型ふるさと納税」に新しく「医療と福祉の DX」という枠を設けていただくことができました。この制度によって、今後は地域の医療機関が情報連携の仕組みを導入しやすくなり、より安心できる医療体制が整うことが期待されます。

研究活動としては、これまで進めてきた「在宅医療の DX」が今年も中心テーマでした。在宅輸血におけるバイタルの遠隔モニタリングや、ミリ波センサーを活用した転倒リスクの検知など、実証的な取り組みを継続してきましたが、2024 年度は新たに「遠隔輸液モニター」の研究に特化して進めました。

在宅での輸血や点滴では、訪問看護師さんが調整を担ってくださっていますが、実際には輸液の速度が患者さんごとに異なり、その結果、終了時間も変動してしまうため、看護師さんの抜針のための訪問スケジュールがずれてしまうという課題がありました。今回の研究では、点滴の終了時間をリアルタイムで把握できるシステムを導入し、訪問看護の効率化に貢献できる可能性があることが分かってきました。さらに今年度は、大阪公立大学との共同研究実証もスタートしました。こちらは、移植後の患者さんにウェアラブルデバイスを装着してもらい、日常のバイタルデータを収集・解析することで、急変の兆候を早期にキャッチし、必要に応じて受診を勧めるといった「未来の医療」の仕組みを目指すものです。まだ始まったばかりのプロジェクトですが、今後はウェアラブルデバイスが、患者さんの安全を見守るツールとして大きな役割を果たすようになることを期待しています。

このように、病院内外の DX 推進や、地域医療の情報連携強化、さらには在宅医療と予防医療の融合に向けた研究に取り組んだ 1 年でした。これからも、現場に寄り添った ICT の活用を通じて、安心で持続可能な医療の実現に貢献していきたいと思います。

2025 年 4 月

春に思いを寄せて

医局長 村田 祥吾

今年の桜は例年よりも長く楽しめたように感じる。つまりは今年度も4月を過ぎてリーダーレポートを書き上げたということだ。医局長として3年半を終えた。5年半務めた病棟医長は細井先生に任せることになり、仕事量は減った一方、医師の働き方改革による勤怠管理システムの導入、研修医の労働時間の制限等、新たな課題にも直面した。医局長という立場は血液内科で二番手のポジションになるわけだが、朝日新聞の折々のことばでおもしろい一文を見つけた。「同じ場所で太く長く生きていこうと思ったら、「最高の二番手」になるべきだ」(堺正章)。トップを競わなければ「ガツガツ」した焦燥感から解放されるし、自分がまだ通過点にいて思い努力し続けられると。なるほど一理あるなと納得した。切磋琢磨とは聞こえはいいが、何のわだかまりもなく、共に成長し続けるのはなかなか難しいことでもある。我々同期三人は和歌山の血液内科診療の充実という共通の目的のために励んできたと思っているが、それぞれが最終的に目指すベクトルが少しずつ異なることで上手くやってこられたのではないかと感じている。

世間的にはすっかりコロナ前の日常生活に戻り、パリ五輪や大谷翔平の活躍に日本中が沸いた一年であった。血液内科としての歓迎会や忘年会もようやく再開した。西川先生が医療情報部の教授に就任され、6月に教授就任パーティーが開催できたことも大変おめでたいことであった。曾我部先生が新しく仲間に加わり、山下先生と岡部先生が海外留学され、堀先生は腫瘍センターのチーフとして活躍されていることも今年度の明るい話題であった。今後も若い先生の希望に沿い、快く成長をサポートできる医局作りを続けていかなければならないと感じている。

一方で今年度は長年血液内科を支えて下さった移植コーディネーターの上田かやさんと医局秘書の花井宏実さんが退職された。上田さんは和医大初のHCTCとして患者さんや家族に寄り添い、円滑な移植医療の提供に貢献していただいた。また、良きメンターとして、多くの医局員の悩みに親身になって相談に乗っていただいた。花井さんには16年にわたり事務的なことから環境整備、実験のサポートに至るまで様々な面で医局、医局員を支えていただいた。手作りの差し入れにも疲れを癒された。改めて感謝の意を表するとともにお二人のこれからの人生が実りあるものであることを祈念する。

松下幸之助は、人を採用する時にはその人の運と愛嬌と後ろ姿をよく見ろと諭したそうだ。「運がいい」と自分で言う人は、自分の成功や失敗を冷静に分析し、ポジティブな側面を見つめる力を持っているとのことである。私もそれなりに運良くここまで来たように思う。

年報に寄せて～2024年度を振り返る～

講師（地域医療支援センター） 蒸野 寿紀

2024年度は4月から榑絢朱先生、山下友佑先生とのチームからスタートしました。山下先生がアメリカ留学に行かれ、7月から代わりに田中顕先生がチームに加わりました。また2025年1月からは榑先生が救急・集中治療部に出向となり、田畑翔太朗先生がチームに加わりました。初期研修医は4月から6月まで大川将明先生、7月から8月は柿本優介先生、9月は坂部慶人先生、11月は百名孝太先生、1月は野田陽生先生、2月は和田冨生先生、3月は小西朋樹先生がローテートしてくれました。医師の働き方改革の影響もある中でしたが、しっかり研修していただいたと思います。このように多くの研修医の先生がローテートしてくれたのは、血液内科の指導体制充実の一端を表していると考えられます。その他の業務として、水曜日の予約外来、金曜日の新患外来を担当しました。教育面では、臨床医学講義 血液系の血小板・凝固異常の2コマの他、骨髓生検シミュレーションを週1回田畑先生と一緒に実施しました。また、卒後臨床研修センターとの関連で、代表指導医、内科研修委員会委員を務めました。外勤で火曜日の紀南病院の外来を継続しました。3月で丸9年にわたり紀南病院で外来をしたこととなります。栩野祐一先生、岡部友香先生、天野雄登先生、太根美聡先生、谷河育朗先生には大変お世話になりました。谷河先生は紀南病院の常勤医となりましたが、研修日として引き続き火曜日の外来を手伝って頂きました。ほとんど自分の判断で精査や治療の方針を決めることができるよう成長されたと思います。4月から大学に戻って来られますが、2年間で血液疾患の入院管理をしっかり学んで頂きたいと思います。

赤血球製剤・自己血使用ガイドライン作成は、パブリックコメントを経て、10月に日本輸血細胞治療学会誌に採択されました。園木教授の先導のもと、ガイドライン作成に関与し、こうして形にできたことを嬉しく思っています。このことが国内の輸血医療のさらなる適正化につながればと考えています。

血液内科以外のところでは、引き続き地域医療支援センター・卒後臨床研修センターの運営に貢献しました。特に黒潮医療人養成プロジェクトの合同シンポジウムを3月に和歌山で開催しましたが、高知大学・三重大学の教職員・学生の皆様をお迎えでき、このプロジェクトの実績の一つとして残すことができたと考えています。また、高校・予備校での広報活動にも注力しました。

個人的には医学教育に携わることが多くなり、医学教育について系統的に学ぶ機会を得るため、日本医学教育学会認定医学教育専門家のコースを履修することとしました。コース履修を通じ、これまでの学生の評価方法を見直し、妥当性の高い評価とすることで教育目的の達成につなげたいと考えています。

最後になりましたが、2025年4月から和歌山県立医科大学地域医療支援センター センター長・教授を拝命することとなりました。これもひとえに中熊名誉教授、園木教授はじめ血液内科の諸先生方のご指導のおかげと感謝しております。またこれまで切磋琢磨してきた同期の村田祥吾先生、細井裕樹先生にも感謝しています。この場をお借りして、お礼とご報告を申し上げます。今後は引き続き地域枠制度の安定的な運用、和歌山県内の地域医療体制の維持に尽力して参りたいと思います。

2024 年度を振り返って

講師 細井裕樹

今年度は医師の働き方改革で、勤務変更を自身で勤怠システムに入力したり、当直の扱いが変更になったりと勤務管理に変更ができました。勤務体制の整備には様々な意見があり、私が働きだしたころより色々な意見が出て多様性が認められるようになっていっていると感じています。私が入局した頃より大幅に医局員の人数も増え、診療や研究の発展のためにも多様性は大事になってくると思っています。医局員が増加した分、様々な分野で活躍される先生が増えています。西川先生は医療情報部の専属で、蒸野先生も地域医療支援センターの専属で、堀先生は腫瘍センターの兼任で御活躍されており、血液内科以外の分野でも大きく大学や附属病院の発展に貢献されています。私も輸血部を兼任させて頂いておりますので、少しずつでも輸血部に新しいことを導入していきたいと思っています。

輸血部では今年度、新たな CAR-T 治療としてイエスカルタ®を導入できました。キムリア®に引き続く 2 剤目の CAR-T 製剤ですが、キムリア®同様、導入時には種々の書類作業や細胞処理の手順整備が必要となりました。輸血部の中島さんと山本さんが担当してくれて、順調に導入することができ感謝しております。2 剤目ということで 1 剤目の教訓も活かすことができ、予定より早い導入が叶いました。来年度も新たな CAR-T 製剤の導入を検討したいです。また、I&A 制度の認定も検討していく必要があると考えています。

今年度は病棟医長を担当しました。今まで村田先生がきめ細やかな運営をしていましたので、私で務まるか少し不安もありましたが、野口師長のおかげで運営することができました。血液専門医もずいぶん増加しましたので、診療面では各チームに運用をお任せすることができるようになり、診療担当医の充実と共に、診療自体の充実を感じています。私自身は今年度、天野先生、岡村先生と診療にあたりましたが、両先生とも知識が豊富で、指導するというより診断・治療方針の確認をすることが多く、私も勉強させて頂きました。

研究に関しては、悪性リンパ腫発症における *PVT1* の役割に焦点をあてた研究は今年度も少し進んだ程度でしたが、大学院生の岡村先生と新たな課題として生化学教室と *TP53* に関する研究に取り組むようになりました。私も新たな知識を入れながら、岡村先生の大学院の仕事としてまとまるようにサポートしていきたいと考えています。また、少し時間を要してしまいましたが、堀先生の論文が仕上がり、堀先生が学位を取得してくれました。臨床を続けながらも学位を取得したい先生のサポートも継続してできればと考えています。

2025 年度も師長さんを始めとする病棟スタッフ、クラークさんを含めた外来スタッフ、輸血部の技師さん、医局秘書さん、診療を担当している医局員や関連病院の先生方、大学院生など多くのスタッフに支えられながら診療、教育、研究に貢献していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

2024 年度 リーダーズレポート

助教 堀 善和

今年度も一年の振り返りの時期にさしかかりました。変化のスピードが早くなっている現在ですが、少しでも時勢に乗り遅れないように努力してまいりたいと考えています。また、今年は私が腫瘍センターに異動しました。様々な先生にお世話になりながら、臓器横断的に腫瘍の薬剤開発を経験できればと考えています。以下に、今年度の主な活動実績を示し、来年度もできるだけよりよい仕組みに変えていきたいと考えています。

2024 年度の主な変更事項

- Dara のシリンジポンプでの皮下注射を実行可能にした → 臓器横断的の実行可能化
- PT-CY の骨髄バンク患者への適応外申請 → 後に保険承認
- 化学療法レジメン選択を容易とするように、レジメンを調整
- 第 1 相試験の PI 引き継ぎ
- 当直日誌の簡略化
- レジメン委員会の簡略化
- 新規治験の調整
- 医局会の簡素化
- エキスパートパネル自立化の調整

学会活動など

- 2024/07/13 第 120 回日本肺癌学会関西支部学術集会
- 2024/08/19 CPC 発表 2 回目
- 2024/8/4ATL の臨床試験を提案したが、承認されず
- 2024/11/16 17 がん薬物療法専門医受験 → 合格
- 2024/11/24 リンパ腫小班会議
- 2024/11/26 研究討議会
- 2024/8/30 KiCS 臨床研究提案 → 承認
- 2024/9/7 がんゲノムセミナー@松山
- 2024/10/09 AMED JCOG2201 山口班 分担研究者として採択
- 2024/10/13 天野医師 日本血液学会 発表を指導
- 2024/12/07 ASH annual meeting 演題を提出（発表はできず）
- 2024/12/14 WAMT 天野医師 発表を指導
- 2024/12/14 内科学会近畿地方会 共同演者 抄録、スライド修正
- 2024/12/14 JALSG 班会議参加
- 2025/01/18 JCOG 班会議参加
- 2025/02/01 きのくにがんセミナー
- 2025/02/07 学位取得
- 2025/02/28 JSCT 本会参加
- 2025/03/07 JSMO 本会参加

2024 年度 リーダーレポート

助教・外来医長 田中 顕

2024 年より助教となりました田中顕と申します。自分も大学教員として年報の 1 ページを記載する立場になったのだなと感じながら 1 年間を振り返ろうと思います。

2020 年に一度大学病院を離れ、海南医療センターで 1 年間勤務、久留米大学での国内留学を 2 年経て、2023 年途中に大学に戻り、新規治療薬・治療法に取り残されているような焦りを感じていましたが、ようやく最新の治療にも慣れてきたように感じています。

入院・外来診療、造血器病理診断、研究・教育について少し触れていこうと思います。

入院患者の診療チームとして 4 月～6 月は松本先生・曾我部先生の 2 名を指導する立場でした。2 人を同時に見守りながら、適切な指導ができていたのかと少し不安ですが先生たちの成長のきっかけに少しでもなれていたら良いなと思っております。7 月～12 月は研修医時代に指導した榊先生と同じチームでした。その時以来のチームで、随分立派に成長されたのだと嬉しく感じました。1 月～3 月は田畑先生とのチームでした。田畑先生はもはや友人のような関係で、指導するという感覚はなく、楽しく働けました。各期間で村田先生、蒸野先生のお 2 人の先輩方も同じチームでたくさんアドバイスを頂きました。先生方のおかげで安心して診療に取り組み、大変お世話になりました。

次に外来診療についてですが、6 月までは副外来医長、7 月からは外来医長を任せて頂きました。胸を張れるような大きな仕事を成し遂げてはおりませんが、あまり用事はなくとも外来の様子を見に行き、外来担当の看護師さんたち、外来クラークの濱口さんやコーディネーターの上田さん、山本さん等他職種の皆さんから何でも話をしてもらえ環境を作れるように努めました(後で何うとどうやら必要とされていないようでしたが・・・笑)。現在はドナー健診医師の業務負担の偏在の解消を課題に取り組んでおります。

3 つ目は造血器病理診断についてです。これこそが大学での私の一番の存在意義と考え、取り組みました。2 年間の久留米大学での診断業務で得た知識・技術を活かし、大学のほぼ全ての造血器病理の診断・確認を行いました。病理診断科の先生たちと意見を交換しながら、正確に病理診断をつけることを目指し、患者の皆様や先生方のお役に立てたのではないかと考えております。診断困難例については久留米大学の大島孝一先生、三好寛明先生にコンサルトさせて頂きましたが、先生方と意見がすべて一致したことは自信にもつながりました。病理診断の技術・知識が錆びつかないように日々努力し、造血器病理診断もできる血液内科医というニッチな存在であり続けようと思います。

最後に研究・教育についてです。久留米大学の大島名誉教授(当時主任教授)、三好教授(当時准教授)のご指導のもと、骨髓肉腫の研究を行い、その結果をまとめた原著論文が無事 accept され、大学院博士課程を修了できました。その後、大学でも研究を進めないといけないのですが、なかなか進んでおりません。今後の課題としたいと思っています。医学部の大学生の講義についても今年度初めてさせて頂きました。昨年 4 月に学会認定の血液指導医にもなりましたので、後進の指導をより充実したものにしたいと考えています。

以上が振り返りになります。来年度も皆さんとともに素敵な 1 年にしたいと思います。

2024 年度の 1 年間を振り返って考える事

助教 小浴 秀樹

世界では、米国の大統領が交代したことが最も大きな変化だったと思います。これまでの民主主義的な平等や平和を重視する価値観が揺らぎ、世界情勢は混沌とし、これらのことはずっと平和で来た日本にも確実に影響を及ぼしています。これからの時代、国家から個人に至るまで、激しい変化に対応することが最重要テーマであると感じています。

私個人としては、6 月に紀南病院の勤務を終え、3 か月間の HCU 出向を経て、10 月から大学の血液内科に戻りました。出向の間に助教に叙せられ、同時に研究主任も拝命しました。このことは非常に大きい変化で、これまでの専攻医や大学院生の立場とは打って変わって、自分には何ができるかを考えることが格段に多くなりました。我々の医局は、良くも悪くも若い医局であり、歴史の重みが少なく、人員も限られる分、機動的に動けることが長所です。しかし、動きやすいというだけで、実際に動く労力や、逆風に耐えることを厭わない姿勢は変わらず必要であり、期待値の高い努力対象を見つけ出すことも常に考えておかねばならないので、変化に対応し生き残るということは非常に大変です。

研究主任として医局の研究事情について振り返りますと、7 月にこれまで研究主任として医局を支えられた山下先生が米国アリゾナ州の Mayo Clinic にご留学され、大学院生では、4 月に棚野先生・岡村先生、10 月に太根先生が入学され、3 月に田中先生が卒業されました。また 2025 年 4 月には、小西先生が入局と同時に大学院に入学されることが決まっています。我々の医局・研究室としては、これまでにない大所帯となっています。このような背景があり、11 月、研究に携わる先生方が互いに刺激し合い、頭と行動を活性化する目的で、長く休止していたリサーチカンファレンスを再開しました。先生方の関心や研究の進捗に対する理解が進み、開催には一定の意義を感じています。一方、リサーチカンファレンスの開催ペースは現在月 2 回で、1 人当たりの発表回数が年間 2 回程度に留まり、より良い情報発信を行うための習慣付けとして十分とは言えません。各人が自身の持つデータ、アイデアを常に発信できるようになることを目標に、さらに工夫が必要です。

2025 年度も臨床から研究に至るまで変化に対応しなければいけないでしょう。既に見えているところでは造血器腫瘍遺伝子パネル検査の実装がそうで、これが与えるインパクトは大きいと思います。また、高額療養費制度の見直しは一旦見送りとなりましたが、これが実行されれば、診療も研究も大きな変化を余儀なくされると思います。来年度以降も時流に乗り遅れず、各自が掲げる目標に向かって前進する覚悟が必要です。

最後となりましたが、和歌山医大血液内科医局に関係する全ての方々に、日頃の厚意に心より感謝を申し上げたいと思います。

2025 年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2024 年度を振り返って

輸血部 主任 堀端容子

輸血部の責任者として 2 年目、輸血部メンバーの変更はなく、不安しかなかった 2023 年とは違い、落ち着いてスタートを迎えた 2024 年だったと記憶しています。終わってしまうと、やっぱり、あっという間の 1 年でした。早速、2024 年度を振り返ってみたいと思います。

まずは輸血用血液製剤について…2024 年度の輸血用血液製剤（RBC,FFP,PC）の購入金額は約 3 億 9000 万円でした（うち、血液内科で使用した製剤金額は 1 億 5767 万円、全体の約 40%）。適正使用を呼びかけている FFP 以外は使用数が増加傾向にあり、血液内科以外でも頻回輸血の患者さんが、特に外来輸血が増加している印象を受けています。廃棄処分した製剤金額は約 84 万円、昨年度末に RBC の期限が 21 日から 28 日に延長されたこともあり、期限切れで廃棄した RBC はゼロでした。全体として、昨年度 100 万円超だったことを思えば、減少はしていますが、もう少し私たちが配慮していれば防げた廃棄もあったかと悔いるものもありました。血液内科の患者さんには他科でキャンセルされた PC を、予定よりも早く使用していただくこともあり、感謝しております。引き続き、適正使用推進、廃棄製剤削減のため、尽力していきたいと思います。

次に、細胞治療業務について・・・限られた人数での業務調整に苦慮しながらも、中島主任を中心に業務の流れが確立してきたかと思います。自家移植、同種移植に加え、CAR-T 療法もはじまり、キムリアは 2023 年 6 月以降 10 例、イエスカルタは 2024 年 6 月以降 7 例の採取を行いました。製品の原材料となるため、製薬会社との細かい取り決めがありますが、すべて逸脱せずに無事に製品化されました。患者さんが望む治療の一助となれていることをうれしく思っています。今後も採取から投与まで患者さんや製品の安全性を確立し、スタッフの教育を行い、いろいろな細胞治療業務に対応できるよう努めていきたいと思います。

最後に余談ですが、昨秋、献血者不足による血小板製剤の調整難を耳にし、約 30 年ぶりに成分献血に行ってきました。初めて足を踏み入れる和歌山駅近くの献血ルームにはたくさんの方が献血に訪れており、一驚しました。結果、血小板献血には至りませんでした。担当の看護師さんたちもとても親切で優しく、善意にあふれる空間でした。このレポートを一読したみなさんが、“献血 Web 会員サービス「ラブラット」”を検索してくれることを切に願って、今年のリーダーレポートを締めくくりたいと思います。

今後とも、ご指導・ご協力よろしくお願いします。

2024 年度を振り返って

5 階西病棟 野口理恵

5 階西病棟に配属され、3 年が経過しました。

5 階西病棟の実現したい看護は、「血液がん、移植関連施設という役割の中で、専門知識をもって患者に寄り添う看護」「予防医療を支える看護」「(それを) 継続する看護」を目指して取り組んできました。それにはまず人材育成が必要であり、専門知識を習得するために医局員の皆さんには毎年、疾患についての学習会や研修会を開催していただきご協力いただきました。ありがとうございました。

造血幹細胞移植看護においては、資格取得者を中心に人材育成に取り組みました。しかしこの数年で、比較的経験年数の長かったスタッフが異動し、毎年 3～4 名の新人看護師を迎えています。いかにこの血液内科病棟で、「寄り添う看護を提供していきたい」と思える看護師を育成するか、チーム医療を推進しながら、『患者が「よい」と感じられる看護の提供ができた』と、看護師が実感できるように、副看護師長をはじめとするスタッフと取り組んできました。ナースコールの対応を速やか行うことで患者から安心することができたことと評価いただいたこと、アセスメントシートの活用で予測的な看護の提供ができたこと、ゴージョの使用を遵守し感染拡大やカテーテル感染を最小限にすることができたなどが成果として感じる事ができ、看護の質の向上につながったと実感しています。

和歌山県唯一の造血幹細胞移植施設として、今後もさらに発展されることと思います。

病棟スタッフ一同、より専門性を発揮し、患者に寄り添う看護の提供を目指して頑張っていきたいと思っています。

7 寄稿文

当科における 2024 年度を振り返って

和歌山ろうさい病院 血液内科 阪口 臨

まず、病棟で無菌室の増床工事が開始されました。現在 3 床ですが、血液疾患の治療においてはご存知の通り常に感染予防は欠かせません。昨今の感染症の蔓延により、そのニーズが減ることはないと考えます。これまでの当科での診療実績を鑑み許可が得られたことに感謝しています。

次に、週一回病棟スタッフとの入院患者カンファレンス、不定期でのスタッフ向けの血液疾患勉強会、研修医の研修や医学生の実習の受け入れを例年通り継続しました。

また、緩和ケアのチームラウンド（PCT）にも参画しました。専門となる診療科のない中、私のできる範囲で活動しています。県がん診療連携協議会の緩和ケア研修会の総合司会や講師も無事終えました。

さらに、輸血療法とがん薬物療法に関するスタッフ向けの研修会も継続しました。それぞれに認定制を導入し、スタッフが安全に実施できることを目指していますが、患者の皆さんも安心して治療を受けていただくことにつながると信じています。

最後に、当院の医局幹事を拝命しました。常勤医は病院全体で約 80 名在籍しています。働き方改革に則った時間外業務のあり方などの検討とその議論の輪の中に入り、とても勉強になりました。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

2025.3.

2024 年度を振り返って

公立那賀病院 血液内科 古家美昭

2024 年度の那賀病院の日常をお伝えさせていただきます。現在、横矢先生と二人体制で週 1 回の外来で村田先生の貴重なご意見をいただき血液内科業務に従事しております。7 月からは山下先生にかわり田中先生が外来を引き継いでくださっています。当院では血液内科病床は 20 床を割り当てられておりますが、概ね満床で超過してしまうこともしばしばあります（超過分は内科等の他科のベッドをお借りしています）。

また、2 次救急医療機関である当院の救急外来体制については、和医大救急科から救急担当医師派遣をいただき成り立っておりましたが派遣いただく日が減少したため（月水金→月水）、それ以外の曜日は当院常勤医師の対応となっています。内科・外科・呼吸器内科・腎臓内科・泌尿器科の先生方と協力しながら我々も隔週程度（半日）の頻度で救急患者の対応をして必要があれば他科へ紹介し那賀医療圏での完結を目指しています。（当院で対応できない循環器疾患や高エネルギー外傷、解放骨折、人工呼吸器管理を要する疾患等は 3 次救急医療機関へ搬送としています。）

横矢先生は一般内科疾患も熱心に診療されており、このたび内科専攻医にとって登龍門である J-Osler（専攻医登録評価システム）を突破し内科専門医を取得されました。家庭では 1 児の父、1 頭の飼い主としても奮闘し、職場では血液専門医に向けて日々励んでおられます。

個人的な家庭状況としては、長男が幼稚園に通うようになり感染症（胃腸炎、RS ウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルスなど 同定できないウイルスも多い）を持ち帰ってくれています。それらは概ね家族全員に感染し診療どころではない状況になることも多々あり急遽私が欠勤してしまうことで多大なるご迷惑をおかけしました。この場を借りて謝罪と感謝を申し上げます。

和医大附属病院血液内科では、同種移植や CAR-T 細胞療法、二重特異性抗体療法、急性白血病の寛解導入療法などの集中治療を要する患者を中心に診療されておりますので、高齢者に対する一般的な化学療法や支持療法を中心に行っている当院の役割は大きくなっており、東は橋本市、西は和歌山市と和医大附属病院・和歌山日赤病院に続き紀北地域の一大拠点になっております。病床は満員御礼のことが多く、転院に時間を要しご迷惑をおかけしてしまうかもしれません。那賀病院をこれからもどうぞ宜しくお願い致します。

至らぬ点は多々ございますが今後ともどうぞご指導・ご鞭撻のほどどうぞ宜しくお願い申し上げます。

海南医療センターでの内科診療

海南医療センター 内科 弘井 孝幸

本年度も、海南医療センターにおいて血液疾患を含む内科診療に従事しました。当院は高齢患者が非常に多く、診療の中心となるのは高齢者の悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫といった血液腫瘍疾患です。診断・治療においては、高齢者ならではの合併症管理や治療適応の見極めが求められる場面が多く、単に標準治療を適用するだけでは解決しない課題に直面することも少なくありませんでした。

2024年10月以降は、診療体制に変化があり、従来の2名体制から1名体制へと移行しました。これにより、診療の効率化が求められる一方で、患者対応における優先順位の見直しや、業務の工夫がより一層重要となりました。幸いにも、関係各所の温かいご理解のもと、何とか日々の診療を継続することができています。

また、血液疾患の診療は続けているものの、当院の方針に沿い、引き続き内科診療の枠組みの中で対応する形となりました。限られたリソースの中で質の高い医療を提供するという点では、これまで以上に幅広い視点が求められていると感じています。

来年度以降も、地域の患者さんにとって最適な診療を提供できるよう努めてまいります。

紀南病院血液内科での1年を振り返って

紀南病院 血液内科 棚野祐一

自治医科大学卒業後、これまで義務年限として9年間、主に地域の一般内科診療に従事してまいりました。その義務年限が終了し、後期研修の2年間を除けば、初めて血液内科医として本格的に勤務する機会をいただきました。その最初の年に、紀南病院に着任することとなりました。

紀南病院には医師3年目から3年間、義務年限中の研修日としてお世話になっておりました。あれから年数も経ち、スタッフの方々も大きく入れ替わっている印象はありましたが、当時お世話になった外来や検査部の方々も多く在籍されており、懐かしい気持ちになりました。一方で、以前に比べて病院全体のスタッフ数が少なくなっている印象も受けました。しかしその中でも、地域中核病院として互いに協力し支え合っていく風土が根付いており、各部署で懸命に働かれる方々に日々助けられながら業務にあたることができました。

血液内科としては、前年度から引き続き常勤で勤務されていた小浴先生、岡部先生に加え、4月から太根先生が着任されました。また、地域枠で義務年限中の谷河先生も4月より一般内科として着任され、内科診療とあわせて血液診療にも携わっていただくこととなり、一時的に5名体制でのスタートとなりました。その後、人員異動があり、小浴先生、岡部先生が離任され、7月からは新たに天野先生が着任され、最終的に4名での常勤体制となりました。加えて、昨年度に引き続き、非常勤として蒸野先生、堀先生が週1回外来を担当してくださり、症例のご相談など多方面で大変お世話になりました。不慣れで分からないことも多い私でしたが、真面目で優秀な血液内科メンバーの先生方に支えていただき、何とか日常診療・業務を進めることができました。心より感謝申し上げます。特に臨床試験の管理など、これまで経験のなかった業務についても、前任の小浴先生より約3か月間で丁寧に引き継いでいただき、大変ありがたく存じております。

2025年3月には、太根先生、谷河先生が異動となりました。最後まで担当患者さんの診療と引き継ぎをしっかりと行っていただき、おかげさまで業務は大変スムーズに進んでおります。お二人の今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。なお、これにより2025年4月からは一時的に常勤2名体制となりますが、非常勤で田中先生が着任され、そのまま7月から常勤として勤務される予定です。なるべく綺麗に業務の引き継ぎができるよう努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることも多々あったかと存じますが、皆様のご支援のおかげで日常業務を進めることができました。最後になりましたが、和歌山医大血液内科の先生方、紀南病院のスタッフの皆様、日頃のご支援に心より御礼申し上げます。2025年度も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

8 写真

西川彰則先生 教授就任式 2024年6月2日 ホテルグランヴィア和歌山にて



山下先生・天野先生 送別会 2024年6月2日



村田先生 ベストティーチャー賞授賞式 2024 年 11 月 19 日



忘年会 2024 年 12 月 13 日





園木先生 還暦のお祝い 2025 年 3 月 10 日



花井さんご退職記念 2025 年 3 月 31 日



研修医



2024年4月～6月 大川 将明



2024年4月～6月 竹内 悠里子



2024年4月～6月 宮崎 皓平



2024年4月～6月 三並 桃佳



2024年7月～8月 石井 宏弥



2024年7月～8月 井上 涼介



2024年7月～8月 柿本 優介



2024年7月 東又 啓子



2024年7月～9月 八百 裕太



2024年9月 坂部 慶人



2024年9月 下川 紗季



2024年9月 中畑 紅里



2024年11月 百名 孝太



2024年12月 武内 廉



2024年12月 福間 一響



2024年12月 和中 千佳



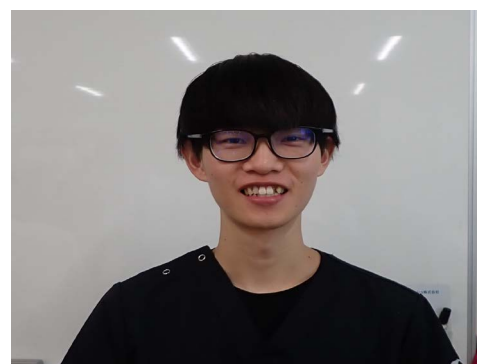
2025 年 1 月 澳 一磨



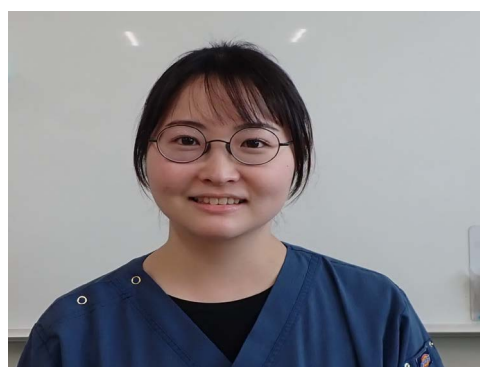
2025 年 1 月 野田 陽生



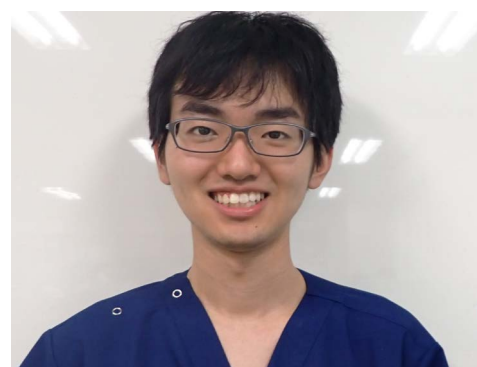
2025 年 2 月 和田 冴生



2025 年 2 月 濱口 曜光



2025 年 3 月 中畑 陽菜



2025 年 3 月 小西 朋樹